



【教育目標】

自ら学び正しく判断して行動する国際性豊かな児童生徒の育成
～～～ 一人一人が輝く子どもの姿を求めて ～～～

☆3月の目標

☆3つの「あ」

- ※あいさつ
- ※あんぜん
- ※あとかたづけ

☆配布物のお知らせ

・学校便り55号

☆今後の主な予定

- ・3月25日卒園式・卒業式 修了式
- ・4月 8日始業式、入園式 入学式

☆四年二組 「ウナギのなごを追って」

村上賢二郎

ウナギのなごを追って、日本の調査グループがウナギがどこでたまごを産むのかを長年かけて調査したお話です。

調査は、ウナギがたまごを産む場所を明らかにするために一九三〇年ごろに始まり、筆者たちはより小さいレプトセファルスを探し求めました。最初は、台湾の近くで五十四ミリのレプトセファルスを見つけた。海流をさかのぼり、だんだん小さいものを見つけた。そして、ウナギは新月にマリアナ諸島のフロントと海山の重なりが交わる地点でたまごを産むことをつきとめ、二〇〇九年の五月にたまごを二つとることに成功しました。

ぼくは、この話を読んで、ウナギのたまごを産む場所をつきとめるまで約八十年近くかかったことにおどろき、また感心しました。筆者自身も三十六年間もウナギのたまごをさがし続けたことは本当にすばらしいと思いました。

☆四年二組 「ウナギのなごを追って」

福地星太

ウナギのなごを追って、ウナギがたまごを産む場所をさがす調査のお話です。

ウナギがたまごを産む場所をさがす調査は一九三〇年ごろから八十年近くの年月がかかった。筆者は一九七三年に調査に加わった。海流の上流へ行くほどとれるレプトセファルスは小さくなっていった。ウナギは、

新月のころにフロントと海山の重なりが

交わる地点でたまごを産むしれないと考える調査を続けた。筆者が調査に加わってから三十六年後、ついに、たまごが二つとれた。大きさは、一・六ミリメートルだった。

ぼくは、ウナギがたまごを産む場所に人がたどり着けたのは、きせきのようなと思った。なぜなら、広い海の中でその場所にたどり着くには、とても努力し苦労しなければならぬけれど、筆者たちはたどり着けたからだ。

☆四年二組 「ウナギのなごを追って」

小松 萌愛

ウナギのなごを追って、調査グループがウナギの赤ちゃんのレプトセファルスやウナギのたまごを見つけるお話です。

マリアナの海に日本中のウナギが集まってきてたまごを産みます。その調査は、一九三〇年ごろから小さなウナギを追い求めることから始まりました。一九六七年に台湾の近くでウナギの赤ちゃんのレプトセファルスが最初にとれました。(五十四ミリメートル)二〇〇九年五月二十二日にたまごが二つとれました。(一・六ミリメートル)筆者が調査に加わってから三十六年がたっていました。まだ、知らないことがいっぱい、調査は続いています。

わたしがこの話を本で一番心に残ったことは、ウナギがたまごを産む場所が発見されたことです。その中でも、調査グループが長い年月をかけて二つのたまごを見つけたことにおどろきました。

☆六年一組 卒業に向けて「大切にしたい言葉」

山内 絢加

私は感謝の言葉を大切にしたいです。感謝の言葉は、自分に対して良いことをしてもらったという言葉だと私は思っています。

例えば、ありがとうございますは感謝の言葉です。みなさんはこの言葉を一日に一回以上は使っていると思います。そのありがたうは、誰に使っているでしょう。私はほとんどが先生、友達、もしくは困っている時に助けてくれた人です。けれど私は、ほとんどありません。こうやって振り返ってみると、いろいろな事を一番多く助けてくれていたのに、なぜありがたうと言わなかったのだろうと思いましたが、なので私はこれから、家族にもあたりまえのことも感謝を言おうと改めて思いました。

最後に、今まで感謝の言葉を誰に使ってきたか、というところを振り返ってみて、とてもささいなことでも感謝の言葉を使いたいです。



